

「暮らしを支える健康ネットワーク」 (中空知地域リハビリテーション広域支援センター)

「目的」: 住民のQOLの向上

「どこに住んでいても、生涯を通じて安心して

生きがいのある暮らしができる」

- ・中空知圏域の地域リハビリの課題やニーズに応じ、
多領域・多職種の間での支援体制の構築
- ・圏域のリハビリに関する情報の共有化
- ・急性期・回復期・維持期リハビリを担当する病院・事業所間の連携強化
- ・特に維持期リハビリを担当する機関のスタッフ(ヘルパー・施設職員等)の資質の向上
- ・各種事業をとおして、関係者関係機関のネットワークの構築の推進

活動

- ・総会(年1回開催)
- ・運営会議準備打合せ(9回)
- ・運営会議(年6回開催)
- ・タウンミーティング(3月4日開催予定)
- ・研修会(年2回開催)

- ・地域資源、問題点の把握
- ・広域で地域が見えてくる
- ・他の地域と違いが見えてくる
- ・担当者間の共通認識?
- ・コミュニケーションがとれてきている?

活動の達成度(逢坂先生の段階を利用)

1. 仲間で共通目標をつくる
2. 街の資源をさぐる
5. 戦略を練る。優先順位を決定
6. 多領域に“部会”を作り、ニーズを出し合い、問題解決
7. 領域同士、部会同士の融合
8. 資源を開発(技術、育成)

活動の問題点、困っている点

- ・活動資金の確保 ・他の圏域の実施状況の情報
- ・地域で開催されている他の団体等による保健・医療・福祉連携事業とのかかわり

その他

- ・今年度パンフレットを新たに作成した。